

別記様式第3号（第6条関係）

会議記録

次のとおり附属機関等の会議を開催したので報告します。

附属機関等名称	近江八幡市廃棄物減量等推進審議会			
開催日時	令和7年10月2日(木) 14:00-16:00			
開催場所	近江八幡市役所 4階 第3・4委員会室			
出席者	出席者（敬称略）			
※会長◎	審議会委員			
副会長○	○奥田 哲士 ○水原 詞治 ○和田 有朗 ・山口 昌孝 ・吉田 栄治 ・中島 てる子 ・中江 しげ子 ・大村 啓子 ・安田 隆雄			
	事務局			
	生活環境課			
	課長 中嶋 武志 副主幹 小島 史子 主事 西中 克季 主事 北脇 翔也 主事 北村 拓己			
次回開催予定	令和8年3月頃			
問い合わせ先	所属名：市民部 生活環境課 担当者名：西中 電話番号：0748-36-5509 メールアドレス： 010602@city.omihachiman.lg.jp			
会議記録	発言記録	・ <input checked="" type="checkbox"/> 要約	要約した 理由	長時間の会議につき、内容を 整理したため
内容	◎会長、副会長の選出 近江八幡市廃棄物減量等推進審議会の会長を事務局案で推薦。規則に従い会長が副会長2名を指名。 会長 奥田 哲司氏 副会長 和田 有朗氏 水原 詞治氏			

	<p>近江八幡市食品ロス削減推進計画評価部会の委員、部会長を規則に従い会長が指名。</p> <p>部会長 和田 有朗氏</p> <p>◎令和8年度ごみ袋のメッセージ募集</p> <p>市内の全小学校の4年生を対象に募集をかけ、可燃大が288件、可燃小が65件、不燃が60件集まった。一次選考は事務局と昨年度審議会委員長・副委員長で行い、事務局にて精査の上、可燃大を26件、可燃小を12件、不燃を11件まで選考した。</p> <p>審議会にて募集要項や選考のポイントを基に最終選考を行い、指定ごみ袋に掲載する作品を各々2点ずつ決定した。</p> <p>なお、可燃小選考にて同率2位の作品の決選投票を実施し指定ごみ袋掲載の2作品を決定した。（掲載作品は掲載スペースの兼ね合いで各種指定ごみ袋に2作品としているため）</p> <p>掲載に選ばれた優秀賞6名には市長室で表彰し、賞状の授与と記念品として図書カード・指定ごみ袋のサンプルを渡す。指定ごみ袋のサンプルができ次第市役所新庁舎1階に絵を展示する。具体的な場所については調整中。</p> <p>また、指定ごみ袋の掲載には至らなかったものの奨励賞に選ばれた児童については、後日学校を通じて賞状と記念品を渡す。</p> <p>○委員からの主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何名が袋に掲載されるのか →各種ごみ袋に2名（計6名）を掲載する。
--	--

	<p>◎ごみの量の速報</p> <p>令和6年度4～3月までと令和7年度4月～8月末速報値を反映し作成。</p> <p>○委員からの主な意見</p> <ul style="list-style-type: none">・目標値（1人当たりのごみ量）の算出基準はどうなっているのか。 →ごみ処理基本計画で令和3年から13年までの目標を立て、そこから逆算した数値になる。・都市部や農村部など区域ごとのごみ量は分かるのか。 →区域ごとのごみ量は分からぬ。・マンションやアパートでごみを独自回収しているところはあるのか。 →許可業者と直接契約を締結しているところはある。・資料の中で他市町においてリサイクル率が50%を超える数値が存在するが、なぜなのか。 →該当の市町村については、可燃ごみをほぼ全量固形燃料化していると聞いており、それが原因と推測される。また、資料中の固形燃料等を除くリサイクル率という数値があ
--	---

	<p>り、そちらについては滋賀県全体としてリサイクル率に大きな差はないことが確認できる。</p> <p>・ごみステーションで回収される資源ごみはすべて市内で処分されるのか。</p> <p>→ペットボトルについては容器包装リサイクル協会と県内業者に委託。そのほか資源ごみについては、市内業者に処理委託している。</p> <p>・再生処分業の数値の仕分けについて、今年度から事業系と家庭系で整理されたとのことですが過去の数値についても遡って修正は可能なのか。ごみ処理基本計画の改定を検討する際の根拠の数字にもなりうるので、数字の根拠を統一ができるのであればやるべきと考える。</p> <p>→報告いただいている業者に確認いたします。</p> <p>・資料の中で資源ごみの直接搬入が令和元年あたりから急増しているが、それはなぜか。</p> <p>→当市で再生利用指定業者を指定し始めたのが、平成30年からなので、それに伴って量が増加したと考えられる。</p>
--	--

◎その他報告事項

報告1：食品ロス実態調査について、今年度も実施予定である。調査対象区域を桐原学区・岡山学区と事務局で考えている。桐原学区は市内でも生ごみ処理機購入補助金の申請数が圧倒的に多く、どのようなデータが出るのか確認できればというところである。

・基本的にはデータというものは、統計的にとるほうがよいと考える。したがって、昨年度実施した2地域をしたほうが良いと考えるが、桐原学区のデータを見たいということであれば、一方を桐原学区とし一方を昨年度調査した地域を対象とするのでどうか。

→承知した。助言いただいた通り進めてまいります。

・食品ロス実態調査とはどのようなものか

→家庭ごみ（可燃ごみ）の一定重量で展開検査を行い、どれだけの食品廃棄物（手つかず、消費期限切れなど）があるかを調査することで今後の施策の資料とするもの。

・プライバシー面は大丈夫か

→収集したごみはエネルギーセンター内で展開検査を実施

	<p>(エネルギーセンターの営業時間後) する。調査後は試料を直接ごみピットに投入するので問題はございません。</p>
	<p>報告 2 : 市職員向けフードドライブの実施 期間 (10月23日～10月30日)</p>
	<p>報告 3 : 衣類・羽毛布団の回収 日時 (11月22日／9時半～11時半) 場所 (市民病院跡地駐車場)</p>
	<p>報告 4 : 環境フェア 日時 (11月8日／9時～15時) 場所 環境エネルギーセンター、健康ふれあい公園</p>

以上